

04 春闘推進ニュース



全国労働組合総連合
TEL:03-5842-5611
FAX:03-5842-5620

全労連ニュース速報 NO.779

2004/05/10

許すな！ 雇用・賃金・年金破壊 守ろう！ 平和と憲法

< 談話 >

年金改悪法案の衆議院本会議採決強行に怒りを持って抗議する

2004年5月11日
全国労働組合総連合
事務局長 坂内三夫

本日衆議院本会議で、政府提出の「国民年金等の一部を改正する法律案（年金改悪法案）」など関連法案が採決強行された。満身の怒りを持ってこの暴挙に抗議する。

直近のNHKの世論調査でも **88%**の国民が、政府の年金改悪法案に危惧を持っており、閣僚の年金未加入や保険料未納に対し、年金不安と政治不信を拡大させている。そのうえ公聴会も設定せず、短時間の審議で成立させることは、到底国民の納得が得られるものではなく、国民無視も甚だしい。政府の年金改悪法案は断固廃案を求める。

特に、自民・公明・民主によって本日可決した「**3**党合意による修正案」は、保険料の連続引き上げや給付の自動削減には何ら是正を要求せず、さらには政府案にない消費税の引き上げに道を開くものであり到底容認できるものではない。

この間の審議のなかで保険料の上限の固定や給付の **50%**下限については、政府のまやかしも崩れてきており、政府案の「**100**年安心」も数年しかもたないことも明らかになってきた。国民の納得がいく審議が求められている時に、この財界の要請に基づいた「**3**党合意による修正案」は、本日の採決の日程まで合意されたものであり、「政府案には反対」とする弁明を持って民主責任は到底免れるものではない。

全労連は、以下のことを緊急に要求する。

- ① 今回の年金改悪法案の廃案と全額国庫負担の最低保障年金の創設、
- ② 国民世論を無視した **3**党合意は直ちに撤回をすべきであり、
- ③ 年金財源には消費税を充てないこと、
- ④ 年金未加入・保険料未納閣僚の辞任と、すべても国会議員の加入・納入状況の公開を強く求めるものである。

このことが何よりも国民の年金制度への信頼を戻す確かな道であると考えからである。

全労連は、参議院段階に移った年金制度の審議にあたって、国会の年金審議に対する国民的関心の高いことを踏まえ、年金制度史上最悪の政府案の廃案を求め全力でたたかう決意である。

自民・公明・民主の3党合意は即時撤回を

未加入・未納閣僚の辞職とすべての国会議員の納入状況の公表を

5月19日を「年金改悪法案の廃案めざす全国統一行動日」に設定＝7日の年金闘争本部で確認

自民・公明党は、所属する国会議員の加入・納入状況は個人のプライバシーに触れるということを利用して、現在公表することになっていません。日本共産党はすでに公表し、社民党も本日公表す

るとしています。国民の年金・政治不信を拡大した、与党と民主党の責任は大きいものがあります。国民の願いを無視し、3党合意を国会に押し付けることは認めることは出来ません。

全労連は、7日に「年金闘争本部拡大会議」を開催し、5月19日に「年金改悪法案の廃案をめざす全国統一行動」を設定するなどの国会会期末までの行動を確認しました。この拡大会議では、「すべての組合員へのアピール」を闘争本部名で発信し、19日の全国統一行動日には、職場・地域から一斉に「職場決議」の送付と地元国会議員・6月議会への要請、職場訪問の実施、17～21日を宣伝・対話行動週間とすることなどを決定しました。

また、「組合員へのアピール」を基本とした、「職場決議案」「地元国会議員申し入れ案」「街頭スポット宣伝原稿案」などを添付して闘争方針案を12日の全国発送とメールで送信しますので、各組織の対応をよろしくお願いいたします。

当面の国会行動予定

5月11日(火) ○衆議院本会議（年金法案のみの採決予定）
12：30 集合 13：00 本会議
14：00 抗議行動 衆議院議面 日本共産党位志委員長

5月12日(水) ○参議院本会議傍聴 参議院議面に12：30集合 13：00傍聴？
○昼デモ 12：00霞門集合 先頭カー（全労連カー）別紙チラシ参照
○国会座り込み＝12：00～15：00
○西口宣伝行動＝17：30～18：00

国会会期末までの年金闘争について

(1) 職場・地域を主体とするこれまでの運動を一層強化して取り組みを推進する。
5・19全国統一行動を設定して断固廃案めざしてたたかう。モデル要請書やスポット宣伝原稿などを早急に送付する。

①職場・地域からの運動

- ◆ 19日には、職場・地域行動の決議を一斉にあげ、政府・与党に送付する。そのためのモデル決議案を早期に作成する。また、目に見え・耳に聞こえる行動を地方で取り組む。
- ◆ 地元国会議員への要請を強める。時節にあったモデル要請書を作成し送付する。
- ◆ 6月議会への要請を強める。
- ◆ 職場訪問を実施し、年金改悪法案の廃案での懇談・対話を進める。
- ◆ ハンドマイク宣伝などの街角スポット宣伝を重視し、あらゆる機会を通じて一人1カ所目標で100万カ所以上の宣伝・対話行動を網の目で実施する。宣伝スポット原稿を至急送付する。
- ◆ 宣伝テープなどは、地域・当該の声で録音するのが好評。

②中央単産の行動は、上記の取り組みを組合員に知らせ、署名の集約と国会・中央行動参加を呼びかける。

(2) 国会行動の予定。

◆本会議や参議院厚生労働委員会開催日

[衆議院の審議時間は**38**時間が目安]

5月**11**日(火) **12**日(水)、**13**日(木) ——傍聴行動
18日(火) **20**日(木) ——20日は座りこみと傍聴行動
25日(火) **27**日(木) ——傍聴行動
6月**01**日(火) **03**日(木) ——傍聴行動
08日(火) **10**日(木) ——10日は傍聴と座りこみ

◎ 委員会傍聴時間は、基本的に**9:30**、**12:30**に参議院議面に集合。

◎ 本会議は、別途連絡する予定。

◎ **25**日に、年金者組合〔**2000**人以上〕は座り込み行動と、大阪も上京団を予定する。

◆国会前座り込み行動＝場所は参議院議員会館前 **12:00~15:00**

○第**07**次国会座り込み・議員要請行動＝5月**12**日(水)

○第**08**次国会座り込み・議員要請行動＝5月**19**日(水) **20**日(木)

○第**09**次国会座り込み・議員要請行動＝5月**25**日(火) **26**日(水)

○第**10**次国会座り込み・議員要請行動＝6月**02**日(水)

○第**11**次国会座り込み・議員要請行動＝6月**09**日(水) **10**日(木)

* ゴシック字は、委員会傍聴と重なる日程。

* 全労連の5月の集中日は**19**日と**25**日に設定する。

◆衆議院通過に抗議する「国会請願昼デモ」の実施

中央単産と首都圏の参加を呼びかける。

◎日時 **5月12**日(水) **12:00**霞門集合 **12:20**スタート

◎ この後国会座り込み行動に合流する。～**15:00**まで。

◆国会行動の重点

①国会行動と委員会傍聴の強化。

水曜日の座りこみ日は議員要請行動を強める。火曜・木曜は委員会傍聴に集中する。

②**5月19**日を中心に、すべての地方組織と中央単産は、与野党を問わず、地元国会議員要請(とくに参議院)を重視し、地元事務所への訪問・懇談や、国会議員会館への要請を繰り返し取り組む。

③署名の**500**万筆の達成と国会提出＝署名用紙は在庫があるので必要な組織は連絡を。

④共同デスクを設置し、国会状況の早期一斉送信とホームページの活用

(3) 国会状況を踏まえた大宣伝行動の重視

◆毎週水曜日の定例宣伝行動を推進するとともに、**5月17**日～**21**日を全国一斉宣伝・対話行動週間とする。

①現在、手元にあるチラシはすべて配布しきる。りんごチラシの在庫があるので、必要な組織には送付します。

②必要に応じて版下を作成 ——宣伝ゾーン用にメール送信と版下で送付

19日配布に必要な版下を作成し送付する。

③スポット宣伝原稿の送付

④全労連新聞の活用

⑤中央での定例宣伝行動

◎5月12日〔水〕 午後17:30～18:30 新宿西口

◎全労連・中央社保協で実施。

分会執行委員会で年金改悪案に怒り爆発 建交労九州支部長崎分会＝長崎県選出国會議員全員に電報送る

4月28日に開いた建交労九州支部長崎分会執行委員会では、自民、公明が押し進めようとしている年金改悪に大きな怒りの声が寄せられました。「閣僚は、自分たちの年金はかけ忘れたと言っているが、そんな事は絶対に許されない」「与党は、補欠選挙で勝ったからと知っているが、国民は年金改悪まで認めたわけではない」といつにもない怒りの声が湧き起こりました。

執行委員会は「このまま何もしないわけにはいかない」ということになり、長崎選出の国會議員全員（衆院5人、参院3人）に電報を打ちことになりました。

電文は与党議員には「長崎県出身の国會議員として、今回の年金改革法案に最後まで断固として反対を貫いていただきますよう強くお願いいたします。県民は、今回の改革案が十分論議されたと認めていません」野党議員には「長崎県出身の国會議員として、今回の年金改革法案に最後まで断固として反対を貫いていただきますよう強くお願いいたします」としました。

ある執行委員は「採決に賛成した議員は、県民にどのような申し開きをするのか聞いてみたい」と語気を荒げていました。